銀　行

１．評価対象企業（14 社）

めぶきフィナンシャルグループ、ゆうちょ銀行、コンコルディア･フィナンシャルグループ、新生銀行、あおぞら銀行、三菱ＵＦＪフィナンシャル･グループ、りそなホールディングス、三井住友トラスト･ホールディングス、三井住友フィナンシャルグループ、千葉銀行、ふくおかフィナンシャルグループ、静岡銀行、スルガ銀行、みずほフィナンシャルグループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

２．評価方法等

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	23
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	7	36
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	4	10
④コーポレート･ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート･ガバナンス関連**	3	18
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	13
計		21	100

（注）評価項目の内容および配点は 115 頁参照

(2)　評価実施アナリストは 28 名（24 社）である。（116 頁参照）

３．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」（114 頁）参照）

①　本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**、**説明会等**、**コーポレート・ガバナンス関連**および**自主的情報開示**において、項目の新設、内容変更、配点変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 75.5 点（昨年度 77.0 点）、総合評価点の標準偏差は、8.6 点（昨年度 6.0 点）であった。

②　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 76%（昨年度 77%）、**説明会等**が 78%（昨年度 78%）、**フェア･ディスクロージャー**が 85%（昨年度 86%）、**コーポレート･ガバナンス関連**が 73%（昨年度 76%）、**自主的情報開示**が 64%（昨年度 67%）となり、全ての分野において昨年度とほぼ同水準となったが、**自主的情報開示**が他の分野に比べ低水準の傾向は変わらない。

③　評価項目について見ると、全 21 項目中、次の 7 項目が平均得点率で 80%以上となった。なお、7 項目には**フェア･ディスクロージャー**の全 4 項目（(a)（c）（e）（g)）が含まれている。また、(a)(b)の 2 項目は、ほぼ全社において 90%以上の高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

(a)「経営陣および IR 部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか」（平均得点率 94%）（得点率：100%1 社・95%11 社・90%1 社・80%1 社）

(b)「決算短信の同時配布資料の内容は十分ですか」（平均得点率 91%）（得点率：100%1 社・95%7 社・90%

3社・85%2社）

(c) 「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか」（平均得点率90%）（得点率：95%8社・90%4社・85%1社）

(d) 「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか」（平均得点率85%）（得点率：90%台6社・80%台7社）

(e) 「英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか」（平均得点率82%）（得点率：90%7社・80%1社）

(f) 「部門別・項目別等、損益の分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか」（平均得点率80%）（得点率：80%台11社）

(g) 「ホーム・ページを利用して有用な情報提供（過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況）を行っていますか」（平均得点率80%）（得点率：90%1社・80%台7社）

④ 一方、**自主的情報開示**の次の評価項目は、上位企業では得点率は高いものの、得点率の低い下位企業も多く、平均得点率は60%台となった。

・「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について」

A 「積極的に実施していますか」（平均得点率64%）（得点率：40%未満2社・40%台4社）

B 「その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか」（平均得点率62%）（得点率：30%未満1社・40%台4社・50%1社）

⑤ 本年度に新設した下記2項目については、次のとおりとなった。

(h) 「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか」（平均得点率85%）（得点率：90%台6社・80%台7社）（上記③(d)参照）

(i) 「統合報告書、ディスクロージャー誌などにおいて非財務情報（ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率69%）（得点率：80%台2社・70%台5社・60%台6社）

⑥ なお、

(j) 説明会資料について事前（当日朝）のホーム・ページ掲載、ネットで同時に参加可能な説明会の開催

(k) 政策保有株についてROE目標と整合的な、より合理的な数値的説明

を望む声が昨年度に引続きあった。

(2) 上位企業（第３位までの４企業）の評価概要

第１位　三菱ＵＦＪフィナンシャル･グループ　（ディスクロージャー優良企業〔5回連続7回目〕、総合評価点84.8点〔昨年度比－2.0点〕）

① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉87%）、**説明会等**（84%）が第1位、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第1位（91%）、**コーポレート･ガバナンス関連**が同得点第2位（79%）、**自主的情報開示**が第2位（85%）となった。昨年度に比べ、**コーポレート･ガバナンス関連**および**自主的情報開示**が若干低下し、その他の3分野は同率であった。

② **経営陣のIR姿勢等**においては、経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していることが高く評価された。また、IR部門に十分な情報が集積され、IR担当者と有益なディスカッションができること、同部門が投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていることも高い評価となった。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が第1位となった。加えて、会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られることも評価され、この分野の評価項目全てにおいてトップの得点率となった。

③ **説明会等**においては、事業または財務上のリスク情報の開示が十分にされていること、主な連結子会社、関

連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること、自己資本規制を始めとする金融規制に関連した開示が十分にされていることが評価された。また、四半期の開示資料の内容についても評価された。さらに、決算発表および説明会が迅速に行われていることも評価された。なお、新しい部門別 ROE の開示を評価する一方、銀行単体の業績目標の開示の継続や、部門別の当期利益・リスクアセット・配賦資本等の開示を期待する声があった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢を始め、ホーム・ページにおける情報提供、英文による情報提供など、この分野全体について極めて高い評価となった。

⑤　**コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていることが評価された。また、中期経営計画（2014 年度～2017 年度）で掲げた経営指標について進捗状況を説明していることに加え、新たな中期経営計画（2018 年度～）において、財務目標、資本政策とともに具体的な戦略が説明されていることも評価された。なお、株主還元の考え方が分かりづらくなったとの声があった。

⑥　**自主的情報開示**においては、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の説明会等」に関して、「IR　DAY」を開催し、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていることが評価された。また、「統合報告書、ディスクロージャー誌などにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が第 1 位となった。特に、統合報告書での CEO メッセージを評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　三井住友フィナンシャルグループ（総合評価点 83.9 点〔昨年度比＋1.1 点〕、昨年度第 3 位）

①　同社は、**コーポレート･ガバナンス関連**が第 1 位（80%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 1 位（91%）、**経営陣の IR 姿勢等**（84%）、**説明会等**（84%）が第 2 位、**自主的情報開示**が第 3 位（85%）となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していることが評価された。また、IR 部門に十分な情報が集積され、IR 担当者と有益なディスカッションができること、同部門が投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていることも評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第 2 位となった。加えて、会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られることも評価された。

③　**説明会等**においては、事業または財務上のリスク情報の開示が十分にされていること、主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること、自己資本規制を始めとする金融規制に関連した開示が十分にされていることが評価された。また、決算発表および説明会が迅速に行われていることも評価された。なお、事業部門別 ROE 目標の開示を高く評価する一方、当期利益の実績開示に期待する声や、一部の単体・収支項目の開示が後退したとの声もあった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢を始め、ホーム・ページにおける情報提供、英文による情報提供など、この分野全体について極めて高い評価となった。

⑤　**コーポレート・ガバナンス関連**においては、資本政策、株主還元策が十分に説明されていることが評価された。また、中期経営計画で掲げた経営指標について進捗状況を説明し、達成のための具体的方策が十分に説明されていることも評価された。

⑥　**自主的情報開示**においては、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の説明会等」に関して、「IR　DAY」を開催し、その際の説明資料等が改善し、かつ十分に開示されていることが評価された。また、「統合報告書、ディスクロージャー誌などにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が同得点第 3 位となった。

同得点第 3 位　りそなホールディングス（総合評価点 81.5 点〔昨年度比－0.8 点〕、昨年度第 4 位）

①　同社は、**コーポレート･ガバナンス関連**が同得点第 2 位（79%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（82%）、**説明会等**が同得点第 4 位（81%）、**自主的情報開示**が第 5 位（80%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 6 位（88%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していることが評価された。また、IR 部門に十分な情報が集積され、IR 担当者と有益なディスカッションができること、同部門が投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていることも評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第 2 位となった。

③ **説明会等**においては、事業または財務上のリスク情報の開示が十分にされていること、自己資本規制を始めとする金融規制に関連した開示がされていることが評価された。また、四半期の開示資料の内容についても評価された。さらに、決算発表および説明会が迅速に行われていることも評価された。なお、一層の部門別開示の充実を望む声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢や英文による情報提供が評価された。

⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、中期経営計画において掲げた株主資本 ROE など経営指標について、進捗状況を説明し、達成のための具体的方策が十分に説明されていることが評価された。

⑥ **自主的情報開示**においては、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の説明会等」に関して、「デジタル戦略説明会」等を開催し、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていることが評価された。また、「統合報告書、ディスクロージャー誌などにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が第 5 位となった。

同得点第 3 位　みずほフィナンシャルグループ（総合評価点 81.5 点〔昨年度比－3.1 点〕、昨年度第 2 位）

① 同社は、**自主的情報開示**が第 1 位（87%）、**コーポレート･ガバナンス関連**が第 4 位（79%）、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 4 位（80%）、**フェア･ディスクロージャー**が第 5 位（89%）、**説明会等**が第 7 位（79%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していることが評価された。また、IR 部門に十分な情報が集積され、IR 担当者と有益なディスカッションができること、同部門が投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていることも評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第 2 位となった。加えて、会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られることも評価された。

③ **説明会等**においては、自己資本規制を始めとする金融規制に関連した開示がされていることが評価された。なお、本業利益の業績予想に関して、他行と異なる定義であるため、他行比較が困難になったとの声や、カンパニー別 ROE、リスクアセット、配賦資本等の開示を望む声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、ホーム・ページにおける情報提供や英文による情報提供が評価された。なお、説明会のライブ中継、資料の事前掲載は、当業界では先進的で、フェア・ディスクロージャー促進に寄与しているとの声があった。

⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていることが評価された。

⑥ **自主的情報開示**においては、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の説明会等」に関して、「IR　DAY」を開催し、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていることが高く評価され、トップの得点率となった。また、「統合報告書、ディスクロージャー誌などにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が第 2 位となるなど、この分野全体で第 1 位となった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **三井住友トラスト・ホールディングス（総合評価点 80.9 点〔昨年度比＋1.5 点〕、第 5 位〔昨年度同順位〕）**

① 同社は、**説明会等**が第 3 位（83%）、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 4 位（80%）、**自主的情報開示**が第 6 位（78%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 6 位（88%）、**コーポレート･ガバナンス関連**が第 7 位（76%）となった。昨年度に比べ、**自主的情報開示**において得点率が＋15 ポイント、評価点で＋2.6 点アップしたことなどにより、総合評価点の上昇幅（＋1.5 点）が第 1 位となった。

② **自主的情報開示**の改善は、「IR　DAY」を開催し、その際の説明資料等が充実していることに加えて、

ESG/CSR レポートの内容が充実していることによる。なお、「統合報告書、ディスクロージャー誌などにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が同得点第 3 位となった。

以　上

2018年度　ディスクロージャー評価比較総括表（銀行）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 23点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目7（配点 36点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目4（配点 10点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3（配点 18点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点 13点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8306　三菱UFJフィナンシャル・グループ	84.8	20.1	1	30.2	1	9.1	1	14.3	2	11.1	2	1
2	8316　三井住友フィナンシャルグループ	83.9	19.3	2	30.1	2	9.1	1	14.4	1	11.0	3	3
3	8308　りそなホールディングス	81.5	18.9	3	29.1	4	8.8	6	14.3	2	10.4	5	4
3	8411　みずほフィナンシャルグループ	81.5	18.5	4	28.6	7	8.9	5	14.2	4	11.3	1	2
5	8309　三井住友トラスト・ホールディングス	80.9	18.5	4	29.7	3	8.8	6	13.7	7	10.2	6	5
6	8331　千葉銀行	78.9	18.0	6	27.8	11	8.7	8	13.9	6	10.5	4	6
7	8303　新生銀行	76.7	17.2	9	29.1	4	9.1	1	12.1	12	9.2	7	7
8	8304　あおぞら銀行	76.0	18.0	6	28.8	6	9.0	4	14.0	5	6.2	11	8
9	7167　めぶきフィナンシャルグループ	74.9	17.3	8	28.2	8	8.4	9	12.4	11	8.6	8	10
10	7186　コンコルディア・フィナンシャルグループ	73.4	17.1	11	28.1	9	8.4	9	13.5	8	6.3	10	9
11	8354　ふくおかフィナンシャルグループ	72.6	17.2	9	27.9	10	8.4	9	13.3	9	5.8	13	12
12	8355　静岡銀行	72.3	17.1	11	27.1	12	8.2	12	13.2	10	6.7	9	10
13	7182　ゆうちょ銀行	68.3	16.3	13	26.2	13	7.9	13	11.7	13	6.2	11	13
14	8358　スルガ銀行	50.7	9.8	14	20.4	14	6.5	14	10.0	14	4.0	14	14
	評価対象企業評価平均点	75.45	17.38		27.95		8.52		13.22		8.38		

（注1）総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。
（注2）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は8.6点（昨年度6.0点）であった。

2018年度 評価項目および配点（銀行）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (23点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していますか。	10
(2) IR部門の機能・姿勢	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。 投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	6
(3) IRの基本スタンス	
① フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。	3
② 会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (36点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示（**連・単の両決算**）	
① 部門別・項目別等、損益の分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	8
② 事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	8
③ 主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（**合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む**）。	5
④ 自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（**規制変更の影響など自主的開示を含む**）が十分になされていますか。	6
(2) 説明資料等（**短信およびその付属資料を含む**）における開示	
① 決算短信の同時配布資料の内容は十分ですか。	2
② 四半期の開示資料の内容は十分ですか。	5
(3) 決算発表	
・ 決算発表および説明会は迅速に行われていますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー	配点 (10点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
① 経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。	2
② 投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	2
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供（**過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況**）を行っていますか。	4
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (18点)
(1) コーポレートガバナンス・コード	
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	6
(2) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	6
(3) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画（**ROEなど目標とする経営指標等**）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (13点)
① 決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について ［過去1年間を目安に評価］	
A 積極的に実施していますか。	5
B その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。	5
② 統合報告書、ディスクロージャー誌などにおいて非財務情報（**ESG情報等**）の開示に積極的に取り組んでいますか。	3

銀行専門部会委員

部　会　長	高井　　晃	大和証券
部会長代理	山田　能伸	ﾄﾞｲﾂ証券
	鮫島　豊喜	SBI 証券
	高宮　　健	野村證券
	西村　英一郎	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	花岡　宏行	JP ﾓﾙｶﾞﾝ･ｱｾｯﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	籔谷　和子	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ･ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（28 名）

石井　　宏	三菱 UFJ 国際投信	中村　真一郎	SMBC 日興証券
伊奈　伸一	UBS 証券	永本　成克	MU 投資顧問
今井　　雅	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One	西村　英一郎	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岩下　暢道	大和住銀投信投資顧問	花岡　宏行	JP ﾓﾙｶﾞﾝ･ｱｾｯﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
川縁　直樹	大和住銀投信投資顧問	柊　　宏二	QUICK
黒田　真琴	ｸﾚﾃﾞｨ･ｽｲｽ証券	古舘　克明	朝日ﾗｲﾌ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
斎藤　佳奈	三井住友信託銀行	摩嶋　竜生	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
坂巻　成彦	野村證券	松野　真央樹	みずほ証券
笹島　勝人	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券	水野　年章	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
佐藤　雅彦	SMBC 日興証券	峯嶋　利隆	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
鮫島　豊喜	SBI 証券	宮田　幸弘	三菱 UFJ 信託銀行
高井　　晃	大和証券	籔谷　和子	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ･ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
高宮　　健	野村證券	山田　能伸	ﾄﾞｲﾂ証券
角田　成宏	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	米澤　正祥	大和証券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。